

(別添 1)

**【大宜味村】**  
端末整備・更新計画

|                     | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | 令和10年度 |
|---------------------|-------|-------|-------|-------|--------|
| ① 児童生徒数             | 0     | 0     | 195   | 0     | 0      |
| ② 予備機を含む<br>整備上限台数  | 0     | 0     | 224   | 0     | 0      |
| ③ 整備台数<br>(予備機除く)   | 0     | 0     | 195   | 0     | 0      |
| ④ ③のうち<br>基金事業によるもの | 0     | 0     | 195   | 0     | 0      |
| ⑤ 累積更新率             | 0%    | 0%    | 100%  | 0%    | 0%     |
| ⑥ 予備機整備台数           | 0     | 0     | 24    | 0     | 0      |
| ⑦ ⑥のうち<br>基金事業によるもの | 0     | 0     | 24    | 0     | 0      |
| ⑧ 予備機整備率            | 0%    | 0%    | 15.0% | 0%    | 0%     |

(確認事項)

- ・児童生徒数は大宜味村立大宜味小学校、大宜味村立大宜味中学校の児童生徒数の合計とする。
- ・予備機については、国の補助上限の15%枠を最大で活用していく。

(端末の整備・更新の考え方)

- ・令和2年度予算で大宜味小学校、中学校に238台整備し令和3年度活用を開始した。今回の整備台数は令和8年度に大宜味小学校126台、大宜味中学校69台、予備機24台の整備を予定している。
- ・令和8年度の児童生徒数は見込みであるため、調達に向けてさらに精査し整備予定台数に反映させていく。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

- 対象台数：238台
- 処分方法

・まだ使用できる端末と使用不可の端末を精査し、まだ使用できると想定される端末については基本的なデータ消去を行い、学校教職員等の業務用端末又は補助端末としてリユースしていく。使用不可の端末については小型家電リサイクル法の認定業者に再資源化等を委託する。

○端末のデータ消去方法

- ・処分する端末については処分業者へ委託する
- ・リユースを予定している端末については自治体職員とICT支援員で対応する。

○スケジュール（予定）

- ・令和8年9月 新規購入端末使用開始
- ・令和8年10月使用済み端末の事業者へ引き渡し

(別添2)

## 【大宜味村】

### ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合(%)

「校内通信ネットワーク環境整備等に関する調査」(文部科学省・令和5年11月実施)の結果では、「学校規模ごとの当面の推奨帯域」(文部科学省・令和6年4月)を超える学校数は大宜味村内では2校あり、総学校数に占める割合は100%である。

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

大宜味村では、ネットワーク事業者及び校内LAN保守運用の事業者と連携して、学校の現地調査等を行い、既にネットワーク速度の確保に向けた課題を特定している。

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

令和7年度以降は機器の取替が必要かも含め、ネットワーク改善について検討を進めていく。

(3) ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている場合には、当該課題の解決の方法と実施スケジュール

令和7年度以降のネットワーク改善に向けて検討を進め、必要なネットワーク速度の確保に取り組む。

(別添3)

## 【大宜味村】

### 校務DX計画

校務DXを推進していくために以下の3つの観点から取り組んでいる。今後、継続して校務DX化に取り組んでいく。

#### 1. 働き方改革

教育現場のデジタル化を図るため、全教室に電子黒板を導入している。

これにより授業準備や教材整理が効率化され、より効果的な指導が可能になり、生徒とのコミュニケーションも活性化される。また一部の文書で公印の使用を省略することで、行政手続きの迅速化を図っていく。この取り組みにより、教職員が教育活動に専念できる時間を増やすことができ、また校務支援システムを整備し、学校業務全般の効率化を進めており、スケジュール管理や生徒情報の整理、報告書作成など、幅広い業務を統合的にサポートすることで、事務作業の負担を大幅に軽減できるよう取り組んでいく。さらに、MicrosoftやGoogleのクラウドサービスを活用して、校内のペーパーレス化を推進し、文書管理や情報共有をスムーズにしつつ、環境への配慮も進めていく。これらの施策を総合的に推進することで、教職員が教育活動に一層専念できる環境の整備を目指していく。

#### 2. データ連携

保護者との連絡を円滑にするため、専用のデジタルツール導入を推進していく。

このツールを活用することで、欠席連絡や学校からの資料配布がデジタル化され、配布物の紛失や受け取り忘れのリスクを軽減し、コスト削減も期待できる。

他にも、学習支援ソフトの活用により、資料共有や連絡事項の確認が促進され、教職員や生徒間の情報共有がスムーズになっている。

校内のデータは共有ドライブに集約し、データの一元管理、迅速な情報共有が可能になるよう取り組んでいく。

### 3. クラウド化

電子黒板の導入により校務DXが進展し、クラウド技術を活用した教育環境の改善と業務効率の向上を期待している。

電子黒板を使うことで、教師は直感的に教材を作成し、Googleドライブで簡単に共有し、Google Classroomとの統合により、授業資料の即時配布やリアルタイムでのフィードバックが可能で、授業内のコミュニケーションが強化される。さらに、調査やアンケート管理にはGoogleフォームを、会議や研修資料の共有にはGoogleドライブを利用し、リアルタイム編集とアクセスを実現。これらのクラウドツールの活用で、校務の効率化と生産性の向上を見込んでいる。

(別添4)

## 【大宜味村】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末とクラウドツールを有効に活用することで、児童生徒一人ひとりの学びを個別に最適化し、協働的な学びを推進する。これにより、教師の負担を軽減しつつ、学習履歴（スタディ・ログ）や健康診断情報等のデータを活用し、特別支援教育にも対応可能な教育環境を整備していく。また、デジタルとアナログの利点を組み合わせ、二項対立に陥らないよう注意しながら教育DXを進めていく。

#### 2. GIGA第1期の総括

GIGA第1期では、1人1台の端末整備とネットワーク環境が整い、ICT活用が進展した。令和2年度に端末を整備し、令和3年度から活用を開始。高学年での調べ学習やGoogleツールによる協働学習が一般化し、令和5年度から家庭学習にもオンラインでも対応可能なWeb学習ソフトが用いられた。その他、当初教職員のスキルにばらつきが見られたが、ICT支援員主催の研修会や支援員の積極的な活用により徐々にスキルの向上が感じられた。GIGA第2期でも引き続きICT支援員活用による研修を強化し、質の向上を図る。これにより、より良い学びの環境が期待される。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

端末利活用の前提として、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末の環境整備を引き続き行っていく。

ICT支援員による校内研修の積極的な実施により、研修を受講する教員の数を増やし、端末の効果的な利活用に資するよう支援していく。また、授業における技術サポートや授業で活用できるデジタルコンテンツの紹介、利活用方法についてアドバイスしていく。児童生徒が自分のペースで学べる環境を整備し、電子黒板やクラウドツールを活用し、視覚的理解を深め、協働学習を促進していく。1人1台端末を活用した学びの保障については、不登校児や日本語指導が必要な児童生徒、障害のある児童生徒に対する学習活動等の支援に取り組む。

端末とデジタル教材を用いて合理的配慮を要する児童生徒等への支援に取り組む。